

万葉

ViVid
万葉

万葉から和歌・俳句への旅

古の仏様に出会う旅

風土記と万葉集の旅

国造り前夜の恋の旅

因幡国

大伴家持



OOTOMO no
YAKAMOCHI

伯耆国

山上憶良



YAMANOUE no
OKURA

歌人と訪ねる山陰・万葉ゆかりの地

出雲国

門部王



KADOBE no
OOKIMI

石見国

柿本人麻呂



KAKINOMOTO no
HITOMARO

山陰・万葉ゆかりの地をめぐる

万葉集は、現存する最古の歌集で、五世紀ころの仁徳天皇の後、磐姫の歌から始まり、万葉集の編者とされる大伴家持の新年を祝う歌(759年)まで、

4500首ほどの歌が載っています。

防人として九州の警備に出かけた兵士の悲しい歌、つらい仕事をする民衆の歌、

そして恋の歌、古代の人々の生きることへの真摯な心が伝わる歌集です。

当時、山陰道の国々は東アジア諸国との海の玄関口でもありました。

中央から見ても注目すべき国々であったことでしょう。

派遣される国司(国を治める役人)は山陰にふさわしい人物が選ばれたと考えられます。

山陰に派遣された国司の中に、万葉集の中でも名高い歌人が赴任しています。

因幡国には大伴家持、伯耆国には山上憶良、出雲国には門部王、石見国は柿本人麻呂。

山陰の風土、この地を舞台とした人間模様などの歌も残されています。

いにしへの日本の心が宿るゆかりの地を訪ねて、万葉の息づかいをビビットに感じる。

そんな旅に出かけてみませんか。

隠岐国



古くから栄えていた隠岐の国。式内社だけでも16社あり、そのうち4社は明神大社でした。遠流の島として柿本人麻呂の子・柿本躬都良、百人一首に歌の残る小野篁、また後鳥羽上皇、後醍醐天皇などの貴人が配流され、島民との交流から隠岐特有の文化が育まれた歴史があります。

日本海

石見国



恋の旅
国造り前夜の

出雲国



風土記と
万葉集の旅

伯耆国

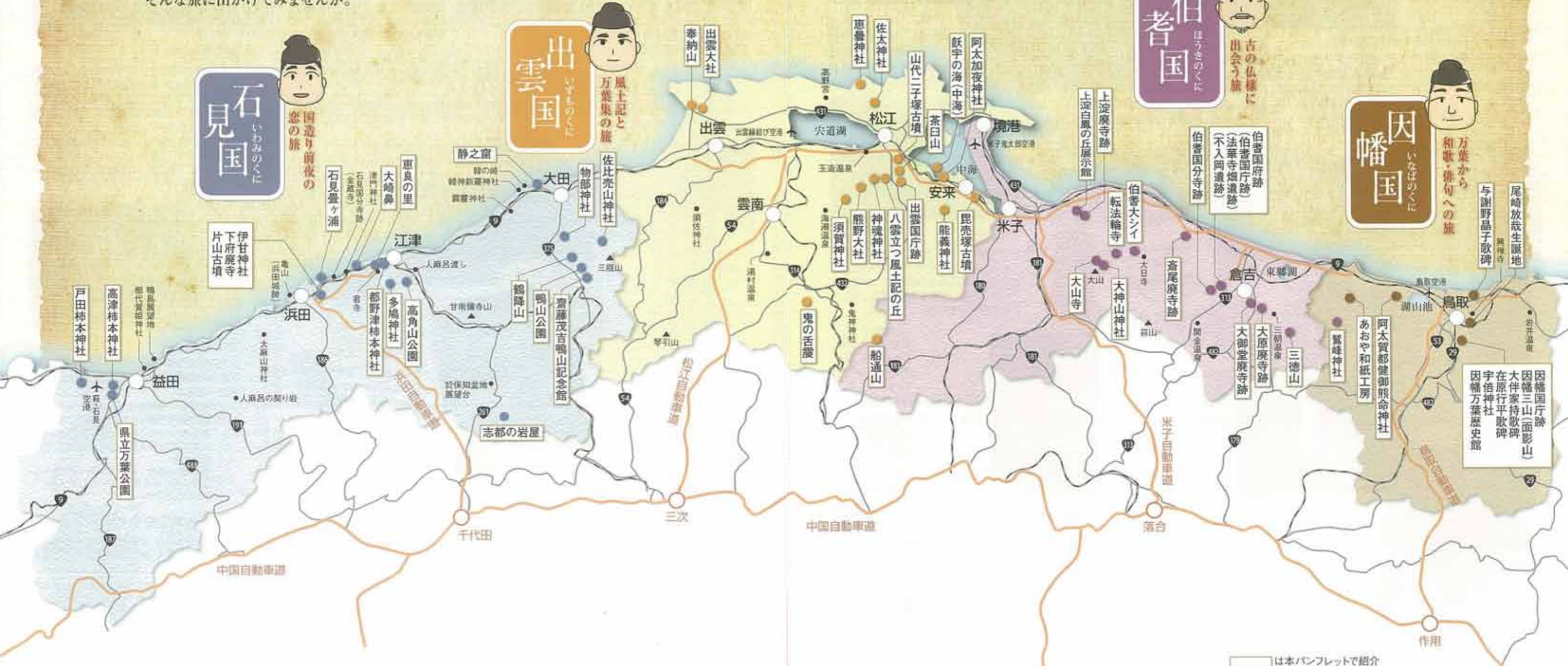


古の仏様に
出会う旅

因幡国



万葉から
和歌・俳句への旅



石見国

いわみのくに

石見のや
高角山の
木の間より
我が振る袖を
妹見つらむか

柿本人麻呂

(巻四・五二六)
柿本人麻呂が友と別れ、石見の国を去るときに高角山の木の間から、木の葉を揺らす姿を、妹に見つらむか、と詠った歌を詠った。

出雲国

いづものくに

飢宇の海の
潮干の瀉の
片思に
思ひや行かむ
道の長手を

門部王

(巻四・五二六)

門部王は、出雲守のとき、境内の女を娶ったが、たがひはくちとして離れ、なやま、十日を待て、二船子への愛情が厚まると、この歌を詠った。
[註]宇の海、中津にむく、意中川の海川。

◎国造り前夜の恋の旅
国を二分する争い「壬申の乱(672)」の後、天武天皇を中心とした律令制による国家建設が始まります。広大な藤原京の造営、二十年後の奈良遷都、そんな激動の時代に柿本人麻呂は石見に国司として赴任しています。万葉集で最高の歌とされる石見相聞歌。石見には相聞歌に詠まれた情景が残る、至る所にあるゆかりの地では今も「人丸さん、人麻呂さん」と親しまれています。



石見国府跡1?

伊甘神社
人麻呂が赴任した石見の国府跡に建てられたといわれる神社。周辺には、人麻呂がいたことを認める情景が広がっている。
[周辺] 下府庵寺…人麻呂も訪ねたかもしれない、島根県でも最古級の寺の跡。片山古墳…有力豪族のものとして七世紀中頃の古墳。



人麻呂の恋人のふるさと!

恵良の里
人麻呂が恋した依羅娘の生誕地と伝えられている恵良の里(二宮町神主)。地元では「恵良嬢さん」と呼ばれ親しまれている。二宮交流館には、娘の歌2首が刻まれている石碑が建つ。
[周辺] 多嶋神社…「八咫鳥(ヤタガラス)」の伝説が伝わる「石見国二の宮」の神社。
都野津柿本神社…延御所と呼ばれていた場所で、ここで人麻呂と依羅娘が暮らしていたと伝えられている。



万葉の頃と変わらない眺め

大崎鼻
ここに立つと、都野津方面に10キロに及ぶ弓なりの海岸線を一望できる。人麻呂の恋の歌の情景が心を打つ愛の聖地。
[周辺] 高角山公園(島の星山)…人丸神社や歌碑、人麻呂とその妻・依羅娘の銅像がある。
石見畳ヶ浦…歌に詠まれた「辛の崎」の地といわれ、千畳敷と断崖が融合した絶景。



茂吉の人麻呂へのオマージュ



全国にある柿本神社の総社

高津柿本神社
元々、鴨島にあった人麻呂神社。しかし大地震(1026)で島は海底に沈み、ご神体が漂着した高津松崎に人麻呂社が建てられた。江戸初期、津和野藩主により鴨島を遠望する高角山に移築され現在に至っている。
[周辺] 戸田柿本神社…人麻呂の生誕地といわれ、遺髪塚もある。
県立万葉公園…250種の万葉植物を主体とした公園。歌碑も35基配置されている。



物部氏の拠点

物部神社
この辺りは物部一族が勢力を持った地域。春日造りの社殿は日本一の大きさといわれる石見国一の宮。
[周辺] 鶴崎山…物部神社の祭神はこの山へ白い鶴に乗って降臨したと伝えられている。
静之窟(しずのいっく)…大田市静間町の海岸にある海食洞。万葉集にある「志都乃石室」の伝承地。
佐比売山神社…国引き神話の杭となった三瓶山麓にある神社。願いがかなうという「叶え杭」がある。

齋藤茂吉鴨山記念館
人麻呂終焉の地は、美郷町湯抱にある鴨山との説を唱えた歌人・齋藤茂吉の情熱がこもる記念館。
[周辺] 鴨山公園…鴨山を遠望する公園。記念館から公園までの道で歌碑めぐりができる。
志都の岩屋…邑南町瑞穂にある巨大な一枚岩。静之窟と同じく「志都乃石室」の伝承地。

◎風土記と万葉集の旅
「古事記」「日本書紀」の神話の舞台として登場する出雲、全国で唯一完本として伝わる「出雲国風土記(733成立)」も残されています。門部王は、風土記がつけられる頃に出雲国司として赴任し、万葉集にも出雲の娘との恋を詠んでいます。「風土記」には、神西湖・穴道湖・中海の大海という港を持ち、交易も盛んな出雲の国の豊かさが余すところなく描かれています。



出雲国庁跡・八雲立つ風土記の丘
風土記の「くにびき」にも登場する意宇の郷。このあたりが当時の出雲の中心地で、天平古道も残っている。国庁跡から近い「八雲立つ風土記の丘」は、貴重な出土品や国分寺周辺や国庁内の役所についての詳細な復元模型が展示されている。
[周辺] 茶臼山…風土記で神名猪野と呼ばれる山。カンナビ山(神のこもる山)が「風土記」では四座記されている。
神魂神社…現存最古の大社造で国室。
山代二子塚古墳…「前方後方墳」と国内で最初に命名された古墳。出雲最大の古墳の一つ。



出雲大社
古代に48mもの高さがあったという本殿の伝承に、裏付けを与えた近年の巨大柱の出土。寂蓮法師が、本殿の千木が雲に届いている様子を和歌に残している。「やはらぐ光や空にみちぬらむ雲に分け入る千木の片そぎ」
[周辺] 奉納山…くにびき神話に登場する、三瓶山、園の長浜を眺望できる絶景の地。

門部王
かどへのおおきみ
天武天皇の曾孫に当たり、中央での地位も高く、力もあつたと考えられる人物。風土記編纂のころ出雲に国司として赴任していたとされる。

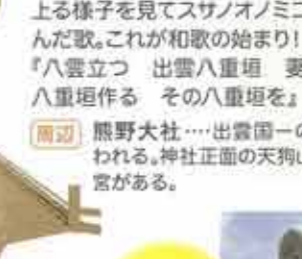


風土記のロマンが広がる地

須賀神社
スサノオノミコトとクシナダ姫が新居としたところ。雲の立ち上る様子を見てスサノオノミコトが詠んだ歌。これが和歌の始まり! 「八雲立つ 出雲八重垣 妻籠みに八重垣作る その八重垣を」
[周辺] 熊野大社…出雲国一の宮といわれる。神社正面の天狗山には元宮がある。



ここが和歌発祥の地



出雲神話のふるさと!

船通山
斐伊川の源流の地。山頂にはタカマガハラからここに降り立たとされるスサノオを祀る祠があり、「天叢雲剣出願之地」の記念碑がある。
[周辺] 鬼の舌巖…斐伊川の支流馬木川の約3kmにわたるすばらしい渓谷。名前は「出雲国風土記」の神話に由来する。



門部王の散策コース
飢宇の海(中海)
門部王は国司の仕事に疲れると、ここに来て中海の風景に癒されていたのかもしれない。「飢宇の海…」で始まる都を懐かしむ歌も詠んでいる。
[周辺] 阿太加夜神社…意宇川に面して、境内に門部王の歌碑が建つ。



社殿が三つ並立する独特の本殿

佐太神社
風土記に「カンナビヤマの麓に座す」と記された佐太神社。佐太大神は出雲の四大神のひとつ。「佐陀神能」は世界文化遺産に登録されている。
[周辺] 恵曇神社…佐太神社の神在祭に來られる神々がまず海辺にあるこの地で休息されるという。



出雲の四大神野城大神を祀る古社

能義神社
「風土記」には「野城社」と記され、古代には社大な大社造であったといわれている。出雲四大神は、「杵築大神」「熊野大神」「佐太大神」「野城大神」。
[周辺] 毘鹿塚古墳(ひめづかふか)…風土記に記されたワコと姫に由来する安来の夏祭り「月の輪神事」の起源となっている古墳。

伯耆国

銀も 金も玉も
何せむに 勝れる宝
子にしかめやも

山上憶良

(巻五・八〇三)

この川の家と可われてゐるが、
今川に流れてはたし何なるたろ
か、まゝに流るるが、あるたろ
か、いゝ、ありはしない。

古の仏様に出会う旅
伯耆の国は、なぜか古代において神社の少ない国、「延喜式」では6社しかありません。その代わり、7世紀からの寺が多く、それも山陰の寺院の中心となりそうな規模の大きな寺が多く見られます。伯耆の国司といえば、山上憶良です。仏教の影響を受け、有名な「貧窮問答歌」では、きびしい税の取り立てに苦しむ庶民の暮らしを詠むなど、弱者にやさしい視線を送っています。



憶良の頃と
変わらぬ
景観



境内で開かれた
牛馬市
「大山博覧会」

大山寺

大山寺は、大山の中腹にあり奈良時代の山岳信仰の霊場が起源。天台宗の西日本の一大拠点として隆盛を極め、牛馬市も開かれ、各地からの参詣道(大山古道)も残っている。

【周辺】 大神山神社…大山寺の奥に位置し、自然石の700mの参道の先に国内最大級の権現通りの社殿がある。

上淀廃寺跡

米子市淀江町で発見された飛鳥後期の建立とされる寺院跡。金堂跡から法隆寺金堂壁画と並ぶ我が国最古の寺院壁画が出土して全国から注目を集めた。

【周辺】 上淀白鳳の丘展示館…上淀廃寺の壁画など出土品を展示。

山上憶良

やまのうえのおくら

大伴旅人と並んで、奈良中期の歌人。遣唐使として中国に渡り、海外の情報通であり仏教にも精通していた。聖武天皇が皇太子時代の先生でもあった。

復元された
金堂内部



写真提供/米子市教育委員会

三徳山

奈良時代、役行者により開かれた霊山。山城すべてが三仏寺の境内。急峻な尾根に納経堂・地藏堂・文殊堂が並び、北斜面にある投入堂は国宝。

【周辺】 鷲峰神社…三仏寺を神宮寺とする古代から力を持つ神社。(鹿野町)

伯耆国府跡

倉吉市の西方に広がる丘陵地に、国司が政務を執った国府跡、関連する役所跡、国分寺跡があり、「伯耆国府跡」として史跡指定されている。憶良が赴任した古代からの景観も残され、万葉の頃の雰囲気を感じることができる。

【周辺】 伯耆国府跡…広大な敷地がそのまま残されている。法華寺畑遺跡…国府に関連する役所、国分尼寺の可能性も。門や橋が復元されている。不入岡遺跡…前身の国府、倉庫など時代により役割を変えたとされる。憶良はここで仕事をしていたのかも。伯耆国分寺跡…散歩に好適。寺域に南門・金堂・講堂、塔の遺構が残っている。大御堂廃寺跡…上水道設備もあつた山陰最古の本格的寺院跡。大原廃寺跡…白鳳から奈良時代の寺院跡。塔を支えた塔心礎は山陰地方最大級。

地下に眠る
いにしへの
栄華



斎尾廃寺跡

琴浦町にある飛鳥時代後期から奈良時代の寺院跡。寺域は東西160m・南北250mに及ぶ大規模なもので、遺構の残存状況が良好であることなどから山陰地方で唯一の特別史跡となっている。

【周辺】 伯耆大シイ…春日神社にあり、樹齢は千年を越すといわれ、シイの木では日本一の巨木。転法輪寺…本堂は古代の建築構法の名残をとどめている。

スゴイ!
圧倒的な
存在感



因幡国

いなばのくに

◆万葉の最後を飾る歌
新しき
年の始の
初春の
今日降る雪の
いや重け吉事

大伴家持

(巻二十・四五二六)

新しい年の始の初春(元日)に
立雪が重なるた日、新しきいなば
が降り続けている。今年もこの
雪のふるに、良いことが積み重
なるように。

万葉集から和歌・俳句への旅
因幡は万葉集にあつては特別な場所。万葉集最終歌は国司大伴家持により因幡国府で詠まれたものだからです。元旦の朝、因幡の国、日本という国を祝う。家持の祈りがこもる万葉集を象徴する歌といえます。後の国司に在原行平(伊勢物語のモデル)在原業平(弟)の名があり、行平が因幡で詠んだ歌は小倉百人一首でも有名です。またこの地は、近代の自由律の俳人、尾崎放哉の生誕地でもあります。



家持も
行平も
ここに!

因幡国府跡

国府町のこの一帯が奈良、平安、鎌倉時代に因幡国を治めていた役所跡。大和三山にも似た因幡三山を眺め、家持は都を思い出していたかもしれない。

【周辺】 大伴家持歌碑…「新しき…」の歌が刻まれている。在原行平歌碑…「たちわかれ いなばの山の 峰におふる まつときかば 今帰るこむ」(古今和歌集)



因幡万葉歴史館

天平のロマンあふれるミュージアム。万葉集の世界と傘踊り・麒麟獅子舞などにスポットを当てた博物館。庭園では四季折々の万葉植物を楽しめる。また万葉の衣裳を試着して館内を見学できる。

和紙の
ふるさと



あおや和紙工房

青谷町は因州和紙の里。古い歴史を持ち、正倉院には721年の記録が残る最古の因州和紙が現存している。「あおや和紙工房」では展示のほか紙すきの体験もできる。

大伴家持

おおともの やかもち

古事記神代巻にも載る有力一族の出身。歌人・大伴旅人の子。「万葉集」の編纂者といわれ、因幡には国司として3年半在任したともいわれる。

尾崎放哉生誕地

「せきをしめてひとり」など自由律俳句を提唱し、漂泊の人生を送った尾崎放哉。生地の久松山周辺には生誕地の標柱や句碑がある。東円寺には放哉の句碑とともに放哉を師とした種田山頭火の句碑も建てられている。

【周辺】 与謝野晶子歌碑…砂丘の一角に歌碑がある。



因幡三山(面影山)

面影山は今木山・瓢山とともに因幡三山と呼ばれる。面影山は、大伴坂上郎女が家持を偲んだ「わが兄子が 面影山のさかぬまに 我のみ恋ひて 見ぬはわたしも」にも詠まれている。ゆかりの歌碑をたどる散策道も整備されている。

ここが
因幡一の宮



宇倍神社

武内宿禰を祭神とする因幡国一の宮。古くから力をもつ神社で、平安時代の因幡の記録「時範記」にも神事の様子が記されている。神前に奉納する「麒麟獅子舞」は県の無形民俗文化財。

参道は
足もとに
ご注意ください。



阿太賀都健御熊命神社

鬱蒼とした森、自然石の急な石段の先に小さな祠の本殿がある。歌枕、因幡の「みくらのやま」は当時、御熊のこととされ、「更級日記」にも記述がある。柱状節理の石があることから別名「柱大明神」。

近代の
俳人・歌人



ViVid 万葉

平安時代

794 平安京に都を移す

784 長岡京に都を移す

758 大伴家持、因幡国司として赴任

759年1月に万葉集の最後の歌を詠む

この頃万葉集ができる

奈良時代

720 日本書紀ができる

724 出雲風土記編纂の頃

729 聖武天皇が即位する

741 聖武天皇が藤原不比等の娘を皇后とする(光明皇后)

741 国分寺・国分尼寺の建設がはじまる

752 東大寺の大仏ができる

754 鑑真が来日

758 大伴家持、因幡国司として赴任

759年1月に万葉集の最後の歌を詠む

784 長岡京に都を移す

794 平安京に都を移す

飛鳥時代

710 平城京に都を移す

712 「あをによし奈良の都は

さく花のにほふがごとく今さかりなり」(万葉集)

713 古事記ができる

716 国ごとに「風土記」の編纂を命じる

716 山上憶良、4月泊香国司に任ぜられ5年ほどを泊香で過す

720 日本書紀ができる

724 出雲風土記編纂の頃

729 聖武天皇が即位する

741 聖武天皇が藤原不比等の娘を皇后とする(光明皇后)

741 国分寺・国分尼寺の建設がはじまる

752 東大寺の大仏ができる

754 鑑真が来日

758 大伴家持、因幡国司として赴任

759年1月に万葉集の最後の歌を詠む

784 長岡京に都を移す

794 平安京に都を移す

古墳時代

350 このころ、大和朝廷が国内をほぼ統一する

538 百濟から仏教が伝わる(552年の説も)

587 蘇我氏が物部氏を滅ぼす

589 隋、中国を統一

593 聖徳太子が推古天皇の摂政となる

594 推古天皇が仏教を盛んにする詔を出す

603 冠位十二階を定める

604 十七条の憲法を定める

607 小野妹子を隋に送る(遣隋使)

奈良に法隆寺を建てる

618 唐、中国を統一

630 遣唐使の派遣

645 大化の改新

663 白村江の戦い

667 大津宮に都を移す

668 中大兄皇子が即位、天智天皇となる

672 壬申の乱

694 持統天皇が飛鳥の藤原京に都を移す

701 大宝律令の制定

700年前後、柿本人麻呂、石見の国の国司として赴任

708 和同開珎がつくられる

柿本人麻呂の
ゆかりの地を訪ね、
心ゆさぶる恋の歌
「石見相聞歌」をもとに、
今、人麻呂像を問い直す!

人麻呂の
人物像を
探る本



山陰万葉を歩く会 会長 川島美美子 著
定価/1,200円(税別)
発行/山陰中央新報社 TEL.0852-32-3420
※書店にない場合は、お電話でご注文ください。

万葉集の最後を飾る
大伴家持の名歌に
新井満さんが作曲。
千年の時をこえて誕生した
最高の祝歌!!

万葉集
ゆかりの
CD



販売価格/500円(税込)
問い合わせ先/鳥取市文化芸術推進課 TEL.0857-20-3226
※郵送(送料80円)での販売もお受けいたします。お電話でご注文ください。

山陰万葉を歩く会

奈良時代に成立した万葉集は、古代に生きた日本人の変わらぬ想いを今に伝えた歌集です。この万葉集の中の有名歌人が、期せずしてこの山陰に国守(国の役人)として数年間滞在しています。柿本人麻呂(石見)、門部王(出雲)、山上憶良(伯耆国)、大伴家持(因幡)は、各々にこの山陰の風土と歴史、文化を的確に歌っています。

この島根・鳥取両県にまたがる地域の財産が、誇り得るものであることを見直し、両県の文化・経済等を含めた交流を行いたいと考え、両県のご支援のもと「山陰万葉を歩く会」を設立いたしました。

会員相互の親睦と研鑽はもとより、両県が手を結んだ大きな地域発信となり、全国あるいは海外とも文化・経済等の交流促進を目指せればと考えています。

本会設立の趣旨・目的にご賛同いただき、本会活動へ積極的なご参加をお願いし、ここにご案内申し上げます。

- 入会ご希望の方/事務局(江津市役所商工観光課 観光振興係)までメール、ファックス等によりお申し込みください。
- 入会申込書/鳥根県立万葉公園のホームページ(<http://ohata.jp/manyou/>)からダウンロードできます。

【山陰万葉を歩く会の概要】

会長/川島美美子(風土記を訪ねる会代表) 副会長/木谷清人(鳥取市公益文化財団理事長)
アドバイザー/藤岡大拙(荒神谷博物館館長・NPO出雲学研究所理事長) 内田賢徳(京都大学名誉教授・萬葉学会代表) 末成弘明(いわみ芸術劇場館長)
事務局/江津市役所商工観光課
事業内容/ 広域万葉地図の作成、万葉の行事や講演会などの開催、万葉スポット巡りの開催、会報の作成等 年会費/個人2千円 団体1万円

山陰万葉を歩く会

事務局

江津市役所商工観光課 観光振興係
TEL.0855-52-2501 FAX.0855-52-1379 E-mail: shokokanko@city.gotsu.lg.jp